



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

# JOCオリンピック教室

## 実施報告書

宮城県 気仙沼市立唐桑中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的 : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、  
オリンピック自身の様々な経験を通して  
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、  
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、  
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名 : JOCオリンピック教室
- 主催 : 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援 : スポーツ庁
- 協力 : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象 : 中学2年生
- 講師 : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間 : 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数 : 80校程度
- 実施方法 : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

## 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、  
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす  
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



## 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた  
オリンピックの価値を生徒に伝え、  
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



## 1コマ目

## 運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を設け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

## 2コマ目

## 座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

### ●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上の調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：梅原 玲奈 先生（スキー／フリースタイル）【出場オリンピック／平昌2018冬季大会】

■期 日：2023年5月17日(水)

■ク ラ ス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・スキー／フリースタイルのスキークロスの種目で平昌2018冬季大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」、フレンドシップ：「友情」、リスペクト：「敬意/尊重」があると説明。オリンピックには心や体、人生を豊かにする価値がある。今日の授業を通して、皆とオリンピックバリューについて一緒に考え、日常の中にあるオリンピックバリューを発見できるようになってほしい。運動の時間では、全員が全力で楽しんでほしいと伝え、準備体操に移る。

○主運動等



・準備運動は、じゃんけん勝ち抜けを実施(全3回)。周りの人とじゃんけんをし、勝った人のみが座っていく。できるだけ早く最後の1人になるように全員で挑戦。その後、コミュニケーションゲームを実施(全3回)。2人組の1人が目をつぶり、もう1人は先生がとっているポーズを言葉のみで説明し、1分の制限時間内に同じポーズになるように挑戦した。  
 ・主運動は、障がい物リレーを実施(全3回)。4チームでゴールする順番を競う。縦左右に置かれたマーカーの外側を回ってジグザグに進み、折り返し地点後は、ミニハードルを両足で跳び越えて戻る。怪我をしないためにも、ルールを守るように伝える。



・運動の時間を振り返り、仲間と協力してルールを守ること意識しながら、それぞれが全力でレースに挑んでいたため、授業冒頭に伝えた「全員が全力で楽しむ」という目標を自然に達成することができていた。運動の時間を通して、皆からたくさんのオリンピックバリューを感じることができたが、座学の時間では、オリンピック出場までの経験をオリンピックバリューに当てはめながら話すので、皆の日常にどのように繋がっているかを話し合い、より深いところまで考えていきたいと伝え、授業終了。

■オリンピック：梅原 玲奈 先生（スキー／フリースタイル）【出場オリンピック／平昌2018冬季大会】

■期 日：2023年5月17日(水)

■ク ラ ス：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



•自己紹介の後、競技映像を見せながら、スキークロスの種目は、4人ずつレースを行い、上位2名が勝ち上がっていくトーナメント戦で行くと説明。約時速80kmの高速でコースを滑りながら、25m程度の距離を数秒でジャンプしたりするので、スピード感のある障がい物競争のような競技である。競技人生を振り返ると、出場の夢を叶えるまで諦めなかったこと、違う国の選手達と協力して練習したことや、ライバルの勝利を祝福すること等、オリンピックバリューがたくさん詰まっていることが分かった。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：①運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出してみよう。  
 ②これからの生活の中で、オリンピックバリューはどんなことに活かせるのか考えてみよう。  
 発表：エクセレンス：「最後まで諦めない」「コーンを倒しても諦めずに走る」「運動会や修学旅行等の行事」等  
 フレンドシップ：「相手のチームにも拍手をした」「大会などで、相手に励ましの言葉をかける」「文化祭」等  
 リスペクト：「終わった後に褒め合って、チームを盛り上げた」「仲間や困っている人に思いやりを持って生活する」等



•座学の時間を振り返り、皆の発表を聞いて、身近にあるオリンピックバリューに気づき、日常との繋がりをたくさん発見してくれていたのが嬉しい。大会後、応援してくれた人から、応援させてくれてありがとうと感謝され、自分の夢のために一生懸命頑張っていたことが、周りの人への応援や勇気になっていたことに気づいた。皆も今後、周りの人に支えられて目標を達成したり、試練に立ち向かっていくことが出来ると思うので、仲間や家族に思いやりを持って生活してほしいと伝え、授業終了。

■集合写真



■記念品贈呈

・2年1組



■修了証贈呈

